慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵橘守部関係書目録
Sub Title	A Catalogue of the Shiigamoto Bunko Collection in the Shido Bunko Institute
Author	
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2004
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.39 (2004.) ,p.363- 387
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料紹介 付記: 川上新一郎記
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20040000-0363

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵橋守部関係書目録

はじめに

本稿は本文庫所蔵の橋守部関係書目録である。すでに財団法人斯道文庫編『椎本文庫目録』（昭和十七年刊、財団法人斯道文庫）、九州大学文学部編『麻生文庫稀覯書目録』（昭和二十六年刊、九州大学文学部）が存在し、さらに平澤五郎氏「橘守部撰述現存諸稿本とその成立に就いて㈠～㈢」（「斯道文庫論集」第十七、十九、二十輯、昭和五十六年二月、五十八年三月、五十九年三月、以下平澤解題と称する）には諸機関所蔵本を含めて詳細な解題が具わる。にもかかわらず、あえて屋上屋を架すのは、出納の便を図るために他ならない。本文庫には守部に関して同一書の各段階における諸稿本が存在する場合があり、函架番号を記載しない平澤解題では出納に困難を感ずることが少なくない。そこで、『椎本文庫目録』『麻生文庫稀覯書目録』の分類を維持しつつ、本文庫における函架番号と平澤解題の該当頁を対応させたのが本目録である。冊数の下が函架番号、次が平澤解題の該当頁である。函架番号が０９Ａ、０９１とあるのは貴重書、Ｂ１とあるのは準貴重書、その他は普通書である。「二〇―一〇六」とあれば平澤解題で第二十輯一〇六頁に解題があることを示す。該当頁の記載がないのは未記載であることを示す。また、新たに守部一家の人々の編著書を加えた。

なお、平澤解題未記載書については、版本や版本の転写本を除いて略解を加えることにした。その際、昭和十四年の橘家による売立目録『橘守部大人自筆遺稿展観入札目録』登載書はその旨注記した。

椎本文庫目録

第一部　橘守部稿本類

一　神道及記紀関係

（一）神道及国体の研究

神道弁　巻上　自筆　全集底本	一冊	09A—1	二〇—一〇六
歴朝神異例　七巻　写本	三冊	シ21E—f39	二〇—一五五
歴朝神異例　七巻　写本	四冊	121—ト106	注1
神異例　存巻一・二・四—七　自筆	六冊	09A—2	二〇—一六九
稜威雄誥　五巻　冬照・東世子筆　全集底本	五冊	09A—3	二〇—一一九
稜威雄誥　五巻　写本	五冊	121—ト184	注2
神代直語　上・中・下　写本	三冊	121—ト139	注3
神代直語　存巻上・中　写本	二冊	シ21E—f29	二〇—一七八
神代直語　上・下　明治九年真苗筆	一冊	シ21E—f37	二〇—一八四

（二）記紀の研究

難古事記伝　五巻　自筆	五冊	09A—4	注4	
難古事記伝　五巻　自筆　全集底本	五冊	09A—5	一九—一六七	
難古事記伝　五巻　写本	五冊	シ21E—f36	一九—一六九	
稜威道別　存巻一—五　嘉永四年刊　椎本蔵板　初印初装本	五冊	210—ト11		
稜威道別　存巻一—五　嘉永四年刊　椎本蔵板	五冊	ヒ210—6		
稜威道別　存巻一—五　〔嘉永四年〕刊	五冊	シ21E—f5	一九—六〇	
稜威道別　存巻一—五　〔嘉永四年〕刊〔明治〕印　椎本蔵板	五冊	シ21E—f4	一九—六四	
稜威道別　存巻六—一一　自筆　全集底本	六冊	09A—6	一九—六五	
稜威道別　存巻四・五　自筆	二冊	09A—7	一九—八四	
稜威道別　存巻三—五　自筆	三冊	09A—8	一九—八七	
稜威道別　存巻三　自筆	一冊	09A—9	一九—九〇	
稜威道別　存巻二（巻三に相当）　自筆	一冊	09A—10	一九—一〇八	
稜威道別　存総論・巻三・六（巻一・二・四・七に相当）　自筆	三冊	09A—11	一九—一二〇	
稜威道別　存巻一・二　冬照筆	二冊	09A—12	一九—一一二	
稜威道別　存巻六—一一　冬照筆	六冊	09A—13	一九—七〇	
温源録稿　存巻一・二　自筆	一冊	09A—14	一九—一三四	

温源録稿　存巻三、稜威道別　存巻七　自筆　二冊　09A—15　一九—一四四

道別対照　自筆　一冊　09A—16　一九—一五二

（三）記紀歌の研究

稜威言別　存巻一—三　嘉永三年刊　椎本蔵板　初印初装本　三冊　911—ト95

稜威言別　存巻一—三　嘉永三年刊　椎本蔵板　三冊　シ21E—f2　一七—一五

稜威言別　存巻一—三　嘉永三年刊　椎本蔵板　三冊　ヒ911—37

稜威言別　一〇巻付目安（巻一—三）〔嘉永三年〕刊〔明治〕印　東京　浅倉屋久兵衛等、（巻四—六）明治二十四年　東京　椎本吟社刊、（巻七—一〇・目安）明治二十七年　東京　椎本吟社刊　一一冊　シ21E—f3　一七—一八

稜威言別　一〇巻　自筆　一〇冊　09A—17　一七—二九

稜威言別　存巻一—三　冬照筆　三冊　09A—18　一七—二七

稜威言別　存巻六—一〇　写本　五冊　シ21E—f1　注5

紀記歌解草稿　存巻二・七　東世子筆　二冊　09A—19　一七—五〇

蘆荻鈔草稿　存巻一三—一五　自筆　三冊　09A—20　一七—六四

三輪神杉　上・下　東世子筆　二冊　09A—21　一七—六九

二　万葉集研究

万葉集墨縄　巻一総論　自筆　一冊　09A—22　一七—七三

万葉集墨縄　巻一総論　写本　一冊　09A—75　一七—七八
万葉檜柧　存巻一—七　自筆　七冊　09A—23　一七—八〇
〔万葉集註無題本〕　存巻一・二　自筆　二冊　09A—24　一七—八八
万葉檜嬬手　存巻一—五・別記　写本　二冊　09A—25　一七—一二七
万葉集千別初稿　存巻五・六・一〇　自筆　三冊　09A—26　一七—九二
万葉集要解　存巻一・二・四—七　自筆　六冊　09A—27　一七—九九
万葉集略解直日　存巻一・三　自筆　二冊　09A—28　一七—一一四
檜嬬手　自筆　一冊　09A—29　一七—一二一
檜嬬手　写本　一冊　09A—73　一七—一二二
万葉集竊考　自筆　一冊　09A—30　一七—一二三

三　文格歌格其他

（一）撰格類

文章撰格　上・下　明治十九年刊　椎本文庫蔵梓　二冊　シ21E—f20　一七—一七八
文章撰格　上・下　自筆　二冊　09A—31　一七—一八二
長歌撰格　上・下　明治六年序刊　江里川千照蔵梓　二冊　911—ト77
長歌撰格　上・下　明治六年序刊（後印）　椎本文庫蔵梓　二冊　シ21E—f27
長歌撰格　上・下　自筆　二冊　09A—32　一七—一三九

長歌撰格　上・下　安政五年中邑正房筆　一冊　09A—76　注6
長歌撰格　上・下　写本　二冊　シ21E—f33　一七—一四四
長歌撰格　上・下　写本　一冊　911—ト53　注7
短歌撰格　上・下　明治十八年刊　椎本文庫蔵梓　二冊　シ21E—f17　一七—一六五
短歌撰格　上・下　自筆　二冊　09A—33　一七—一六六
短歌撰格巻下草稿　自筆　一冊　09A—96　注8
短歌撰格　上・下　写本　一冊　シ21E—f32　一七—一六七
短歌撰格　上・下　写本　二冊　911—ト70　注9

（二）歌格及歌論

記紀歌集糾謬草稿　自筆　一冊　09A—34　一七—二四七
題歌虚字詠格　上・下　明治三十一年　東京　椎本吟社刊　二冊　シ21E—f8　一七—二五〇
虚字詠格　存巻上　写本　一冊　シ21E—f38　注10
長歌大意　〔元治元年〕井上主晴筆　一冊　09A—35　一七—一五七
万葉集緊要　於保武涅・上・下　天保十三年跋刊　二冊　シ21E—f22　一七—一九三
万葉集緊要　大旨　自筆　一冊　09A—36　一七—一九五
万葉集緊要　大旨・第一　自筆　一冊　09A—37　一七—一九七
万葉集緊要　於保武涅・上・下　版本転写本　二冊　911—ト69　一七—一九四

夫木集緊要　上・中　自筆　二冊　09A—38　一七—二〇一

夫木集緊要　上・中　上、冬照筆　中、東世子筆　二冊　09A—39　一七—二〇七・二一九

夫木集緊要　上・中・下　浜子筆　二冊　09A—86　一七—二一一

＊旧函架番号シ22E—f34を変更

和歌一字抄　上・上之下　自筆　一冊　09A—40　一七—二七〇

心の種　上・中・下　〔天保九年〕刊〔明治〕印　東京　金花堂佐助　三冊　シ21E—f9　一七—二八〇

詠歌玉津嶋　上・下　自筆　一冊　09A—41　一七—二八二

詠歌玉津嶋草稿（外題）　自筆　一冊　09A—42　一七—二八〇

四　語学及字彙

千代古径　自筆・一部冬照等筆　九冊　09A—43　二〇—二四五

千世乃古道　初編三巻　自筆　三冊　09A—44　二〇—二四〇

山彦冊子　初編三巻　天保二年　江戸　須原屋茂兵衛等刊　三冊　シ21E—f24　二〇—一九二

山彦冊子　初編三巻　〔天保二年〕刊天保十年印　江戸　須原屋茂兵衛等　三冊　ハ44B—33

山彦冊子　存巻四・五・六　自筆　三冊　09A—45　二〇—二〇四

山彦冊子抜書　写本　一冊　09A—46　二〇—一九七

鐘廼比備起（鐘のひゞき）　三巻　天保十年　江戸　須原屋茂兵衛等刊　三冊　シ21E—f7　二〇—二〇二

難語考類聚　八巻　写本　一〇冊　09A—47　二〇—二一三

龍田川弁・神名火山考〔冬照〕筆・守部自筆補訂　一冊　09A—48　二〇—二一一

雑々拾遺　自筆　一冊　09A—49　二〇—二一五

助辞本義一覧　上・下　天保九年　江戸　須原屋佐助刊　二冊　シ21E—f13　二〇—二六四

てにをはわらはのさとし　上・下　東世子筆　全集底本　二冊　09A—50　二〇—二七三

てにをはわらはのさとし　上・下　写本　二冊　09A—87　二〇—二七四

波行の音ひとへとの用ひざま　自筆　一冊　09A—94　注11

五　歴史研究

蒙古諸軍記弁疑　五巻　巻一—三、別筆　巻四・五、自筆　全集底本　五冊　09A—51　一七—三四二

蒙古諸軍記弁疑　存巻四・五　写本（東世子筆歟）　二冊　09A—52　一七—三四五

蒙古諸軍記弁疑　五巻　写本　五冊　シ21E—f30　一七—三四九

蒙古軍記弁義　五巻　自筆　五冊　09A—53　一七—三五七

蒙古軍弁義　存巻二—四　自筆　三冊　09A—54　一七—三五八

六　歌文集其他

（一）歌文集

待問雑記　上・下、待問雑記後編上草稿　自筆　全集底本　三冊　09A—55　一七—三六三

蓬壺草　文辞部　自筆　一冊　09A—56　一七—三六一

蓬莱園記　上・下　明治二十四年　椎本吟社刊　二冊　シ21E—f21　一七—三六七

鼇頭蓬莱園記　上・下　自筆歟　二冊　09A—77　一七—三七二

蓬莱園記（錦所叢書十一）欠首　自筆　一冊　09A—78　注12

箱根紀行稿　存前半　奥河内清香筆　一冊　09A—79　一七—三八一

穿履集　六巻　自筆　七冊　09A—57　一七—三八三

詠草　七種　自筆　七冊　09A—58　一七—三八八

讃大江戸歌並短歌　文政九年　江戸　和泉屋庄次郎刊　一冊　シ21E—f28　一七—三九九

橘守部家集　上・中・下　嘉永七年序刊　橘元輔蔵板　三冊　シ21E—f16　一七—四〇二

〔橘守部詠草等〕自筆　一冊　09A—80　注13

下蔭集　七巻　天保九年刊明治二十六年修　東京　椎本吟社　六冊　シ21E—f12　一七—四〇七

佐野多気雄備忘録（外題）佐野多気雄筆　一冊　B1—ト142　注14

＊守部『書目童唱』所収

（二）歌合

歌合　七種　　八冊　09A—59

い　十五番歌合　下書　守部筆　　一冊　一七—四五〇

ろ　百五十番歌合　文政二年八月一日　守部筆　　二冊　一七—四一九

は　五十壱番歌合　三十四番判詞以下欠　〔天保十三年春〕　判詞守部筆・歌別筆　　一冊　一七—四三四

に　四十四番歌合下書　天保四年五月二十五日　判詞守部筆・歌東世子筆　　一冊　一七—四四二

ほ　〔四十八番歌合〕　序判詞守部筆・歌別筆　　一冊　一七—四二二

へ　擬難陳三十番歌合　天保十年十一月六日　自筆　　一冊　一七—四二八

と　二十五番謌合　文化十五年三月　判清水浜臣　守部筆　　一冊　一七—四五二

＊この歌合守部の関係せるものにあらず。

送別歌合　天保十三年春　〈五十壱番歌合〉　写本　　一冊　09A—93　注15

八十一番歌合　弘化三年六月十二日　判詞守部筆・歌坂倉千英筆　　一冊　09A—81　一七—四四四

八十一番歌合　弘化三年六月十二日　明治十四年藤波教忠筆　　一冊　09A—82　一七—四四九

八十一番歌合　弘化三年六月十二日　写本　　一冊　911—ト48　注16

七　注釈書類

神楽歌入綾　上・中・下、催馬楽入文　上・中・下　天保十二年跋刊　六冊　シ21E—f6、10　一七—二九三

神楽歌〔注〕　写本　一冊　09A—92　注17

土佐日記舟の直路　上・下　天保十三年序刊　月下庵蔵梓　二冊　915ヒ—2

土佐日記舟の直路　上・下　天保十三年序刊明治修　椎本蔵梓　二冊　シ21E—f19　一七—三一三

土佐日記正文　上・下　明治十八年　甲府　徴古堂刊　一冊　シ21E—f18　一七—三一七

伊勢物語箋草稿　上・下　写本　二冊　シ21E—f31　一七—三一九

越路の家つと　写本　全集底本　一冊　09A—95　注18

第二部　橘守部手沢本

石上私淑言　上・下　本居宣長著　守部筆　二冊　09A—60　注19

詞瓊緒　七巻　本居宣長著　文政十二年刊　守部・〔道守〕自筆書入　七冊　09A—61　注20

万代和歌集　二〇巻　藤原光俊撰　写本　守部自筆書入　八冊　09A—62　注21

拠字造語抄　乾・坤　清水浜臣著　写本　二冊　09A—63　注22

蜻蛉日記　上・中・下　藤原道綱母著　東世子筆・冬照自筆書入

続世継　一〇巻　藤原為経著　文政五年国友恒定筆　三冊　09A—64　注23
出雲風土記解　上・中・下　内山真龍著　写本　一〇冊　09A—65　注24
装束織文図会、女官装束織文図会　松岡辰方著　文化五年源義溥筆・天保十一年守部自筆識語　三冊　09A—66　注25
長歌詞珠衣　六巻　小国重年著　写本　折本三帖　09A—67　注26
訂正古訓古事記（外題）　上・中・下　本居宣長編　享和三年刊　文政二年守部・〔天保〕冬照自筆書入　三冊　09A—68　注27
新撰六帖題和歌　六巻　衣笠家良等　万治三年　〔京〕中野五郎左衛門刊　嘉永四・七年冬照・安政六年東世子自筆書入　三冊　09A—74　一九—一五九
詞林名所考　五巻　西順編　刊・延宝八年某補写書入　天保十一年守部自筆識語　五冊　09A—83　注28
本草和名　上・下　深江輔仁著　江戸　和泉屋庄次郎刊　三冊　09A—84　注29
すさひ考　清水浜臣著　守部筆　二冊　09A—85　注30
八幡宮愚童訓　本名八幡蒙古記　守部筆　一冊　09A—88　注31
南紀名勝略志　写本　一冊　09A—91　注32
歌仙家集（外題）　正保四年　〔京〕中野道也刊　契沖自筆書入　昭和十九年佐佐木信綱加証　六冊　09A—97　注33

附、橘守部墨蹟　一五冊　09A—98　注34

長歌「日本三景」　三幅　09A—69

尺牘　青木永章宛　二通　09A—70

守部自筆短冊　二枚　一幅　09A—71

第三部　橘家（冬照・東世子・道守）編著書

十八番歌合　嘉永五年五月　判冬照　嘉永五年冬照筆　一冊　09A—89　注35

三十番歌合　安政五年春　判冬照　万延二年冬照筆　二冊　091—ト113　注36

土佐日記解　上・下　冬照著　写本　二冊　09A—72　注37

延喜式校本　冬照著　天保三年自筆　一冊　322—ト6　注38

椎のこやて（外題）　明治二年序刊

橘冬照家集一巻、東世子家集一巻　二冊　シ21E—f11

消息贈答　東世子自筆草稿　一冊　09A—90　注39

橘道守家集　二巻　明治三十七年　椎本吟社刊（活版）　二冊　911—ト16

明治歌集　初編六巻、二編六巻、三編上・中・下　橘東世子編　初編　明治九年刊同十二年改正、二編

明治十年、三編　明治十二年　椎本吟社刊　九冊　911—ト96

同詠共撰集　第四四、四六―四八、五〇、五三、五五、五七―六一、七二号の各前巻、第八一号の後巻
橘道守編　明治十七年七月―同二十年八月　椎本吟社刊（活版）
一四冊　910―37ト

共撰明治謌林　第一―五、一〇―三一、三四―三九、五二―六三、一〇五、一一五、一一八、一一九、一二三、一一五集　橘道守編　明治二十二年十月―同三十三年二月　椎本吟社刊（活版）
五二冊　910―37ト

新年勅題詠進歌集　第三編　橘道守編　明治二十二年　椎本吟社刊（活版）
一冊　911―ト72

明治歌友肖像千人一首　第一巻―第四巻　橘道守編　明治二十二年―二十六年　椎本吟社刊（石印）
四冊　911―ト65

〔注〕

1　香色地菊花唐草文様空押金砂子散表紙（二七・〇×一八・六糎）。外題、金砂子散題簽「歴朝神異例　壱（二三、四五、六七大尾）」。内題「歴朝神異例巻一（―七）」。料紙、楮紙。墨付、第一冊六十五丁、第二冊八十九丁、第三冊九十三丁、第四冊八十三丁。自序末に「天保十四年七月」。署名「橘守部謹輯」。終稿本の改訂に従う転写本。

2　紫色地桔梗文様空押表紙（二六・七×一七・六糎）。外題なし。内題「稜威雄誥巻之一（―五）」。料紙、楮紙。署名「別楠後身寸邑子謹撰」。墨付、第一冊四十二丁、第二冊三十九丁、第三冊四十一丁、第四冊四十丁、第五

冊三十二丁。印記「稜威之舎蔵書」。終稿本の改訂に従わない転写本。

3　香色布目表紙（二七・八×一九・一糎）。外題、打付書「神代直語　上（中・下）」。内題「神代直語上之巻（中之巻、下之巻）」。料紙、楮紙。自序末署名「橘守部謹識」。墨付、上冊四十二丁、中冊四十九丁、下冊四十八丁。印記「幹今蔵書」（表紙貼紙）。他に「松浦伯爵家文庫楽斎堂図書」の貼紙。定稿本の転写本。

4　新補藍色表紙（二七・八×二〇・一糎）。外題、単郭題簽「難古事記伝　一（―五）」（春日政治氏筆）。内題「難古事記伝巻第一（―五）」（巻四、五は朱書）。料紙、楮紙（全丁入紙）。墨付、第一冊三十五丁、第二冊三十三丁、第三冊四十四丁、第四冊三十六丁、第五冊四十四丁。印記「椎本文庫」（第五冊末のみ）。「於裒牟涅」の末尾に貼紙、その他朱訂多し。また、遊紙に『難古事記伝』の反故を用いたところがある。09A―5の前稿本。

『難古事記伝』については、『椎本文庫目録』『麻生文庫稀覯書目録』の函架番号と本文庫での登録状況とが一致せず、さらに平澤解題に本書が洩れているため、混乱が生じている（かつて平澤氏から、執筆中本書が見あたらず、解題が書けなかったとうかがったことがある）。

両目録では、09A―4を「写本　全集底本　東京横山重氏蔵本ノ影写、天保十三年ノ序アリ」、09A―5を「自筆　前者ノ草稿本　本書ニ於ケル朱書ノ訂正ハ総テ前者ノ本行ニアリ」とするが、現状では、09A―4は09A―5であった自筆の草稿本が宛てられ、09A―5はかつて横山重氏蔵であったとされる自筆の終稿本となっている。そして終稿本の影写本09A―4は新たな函架番号シ21E―f36に変更し、普通本とされている。また、両目録では全集が影写本を底本にしているかのごとくに読みうる箇所があるが、全集底本は自筆終稿本である。『橘守部大人自筆遺稿展観入札目録』二六。

5　本文共紙表紙（二八・三×一九・一糎）。仮綴。

外題、打付書「稜威言別　巻之六（―十）」（巻七は「之」なし）。内題「稜威言別巻之六（―十）」。料紙、薄様。墨付、巻六　六十六丁、巻七　五十三丁、巻八　七十七丁、巻九　五十七丁、巻十　六十九丁。自筆本09A―17巻六―十の影写本。

6　茶色布目表紙（二三・五×一六・一糎）。外題、黄色題簽「長歌撰格　全」。内題「長歌撰格上（下）」。料紙、楮紙。墨付、六十八丁。奥書「安政五戊午といふとしの冬月はかり伊佐みつまろぬしよりかりてうつしおへぬ　中邑正房（「正房」朱印）」。印記「中邑氏蔵書」。自筆本系の写本。

7　淡緑色地卍繋牡丹文様空押艶出表紙（二七・三×一八・九糎）。外題、題簽「長歌撰格」。内題「長歌撰格上（下）」。料紙、楮紙。墨付、九十三丁。印記「荒陵文庫」「祝姓秘玩」他印文不明一顆。自筆本系の写本。

8　淡茶色布目表紙（二七・〇×一九・三糎）。外題、題簽「短歌撰格下」（「下」は後補か）。内題「短歌撰格巻下草稿」（「草稿」後補）。料紙、楮紙。墨付、三十丁。印記「東上州桐生町吉田氏蔵書」。裏表紙見返しに「たりほの舎蔵書」と墨書。版本とは別書と称してもよい初期段階の草稿本。徳田進氏『橘守部と日本文学―新資料とその美論―』（昭和五十年刊）第六章に見える初稿本の下冊か。

9　濃縹色布目表紙（二七・〇×一九・一糎）。外題、子持枠題簽「短哥撰格　上（下）」。内題「短歌撰格上（下）」。料紙、薄様（全丁入紙）。墨付、上冊三十三丁、下冊三十二丁。印記「臼井蔵書」。自筆定稿本と行格を等しくし、補訂に従う転写本。

10　浅縹色布目表紙（二三・二×一六・五糎）。外題、題簽剥落。内題「虚字詠格稿」。料紙、薄様（全丁入紙）。墨付、五十丁。阪本龍門文庫蔵本、国会図書館蔵本系の転写本。

11　黄色地菊花唐草文様表紙（二四・九×一七・三糎）。外題なし。内題、巻頭に貼紙「波行の音ひとへとの用ひ

ざま」「一冊」（後人筆）。料紙、楮紙。墨付、十四丁。印記「椎本文庫」。本居春庭『詞八衢』に対し補訂を試みた草稿。『橘守部大人自筆遺稿展観入札目録』七七。

12　淡茶色布目表紙（二七・〇×一九・〇糎）。外題、題簽「錦所叢書　蓬萊園記　橘守部先生自筆　坤（朱）　十一（朱）」。内題なし。料紙、楮紙。墨付、五十九丁。印記「桐生吉田氏図書之記」。鼇頭注あり。巻首内題なく総記を欠き、小記前書「かくて此蓬萊園のうちに云々」以下を存す。巻末は守部跋の後、直ちに「おふしたてたる草も云々」の松浦侯の跋を記す。但し、年記・署名は「天保五年四月　松浦肥前守源朝臣熙識」。草稿本。

13　淡茶色布目表紙（二三・五×一五・九糎）。仮綴。外題、内題なし。料紙、薄手鳥の子。墨付、十六丁。守部の詠草、手習、万葉檜柧序、蝸牛詞の草稿や反故類を綴じたもの。

14　淡茶色表紙（二三・三×一五×八糎）。外題、子持枠題簽「佐野多気雄備忘録　橘守部著書目童唱其他」。内題「書目童唱」他。『書目童唱』の署名は「金龍山中古語得業稗田和礼癡撰」。料紙、洋紙（四周双辺有界十三行茶色印刷罫紙）。印記「惣郷文庫」「小林氏図書」。佐野多気雄（伝未詳）の抜書雑記帳。巻頭（一―一九丁）に守部の『書目童唱』を収める。以下佐藤一斎『初学課業次第抄録』や新聞の書抜きを含む雑記。『書目童唱』末に朱書で「右　橘守部著述　下野足利ノ人大河内清香曽テ守部カ門ニ入テ和学ヲ修ム後一日江戸ニ到リ其家ニ宿シ翌旦将ニ郷里ニ帰ラントス守部其夜之ヲ作リ別ニ臨ミテ贐ト為セシ書ナリト云」「明治廿一年四月初一日写了於東京根岸金杉寓居　原本係下野足利人小村連氏所蔵　多気雄記　此日天気陰翳所謂花曇東台早桜漸開唇将呈笑」。『書目童唱』は吉田家蔵自筆本が知られる。徳田進氏『橘守部の国学の新研究』（昭和四十九年刊）第五章参照。

15　縹色地卍繋文空押表紙（二二・七×一七・〇糎）。外題、打付書「送別歌あはせ　全」。内題「送別歌合」。料紙、楮紙。墨付、三十七丁。印記、印文不明。本書は

本文庫蔵『五十一番歌合』（09A—59は）と同一書の完本でその訂正本文に従っている。歌合名を異にする理由は不明である。

16　白布目表紙（二六・四×一八・一糎）。外題なし。内題「八十一番歌合」。料紙、楮紙。墨付、八十一丁。守部跋までを存し、追記なし。但し、三十二番、六十八番の判詞があり、国会図書館蔵本との関係は認められない。

17　素紙表紙（二三・六×一八・一糎）。外題、淡茶色題簽「神楽歌催馬楽注解」。内題なし。料紙、楮紙。墨付、四十五丁。印記「徳本文庫」。天理図書館蔵『神楽歌〔注〕』自筆本（081—イ3—181）の転写本。題簽には「神楽歌催馬楽注解」とあるが、神楽歌の注のみ。

18　黄色表紙（二六・一×一八・四糎）。外題、浅縹色題簽「越路の家つと百人一首註解」。内題「越路の家つと」。料紙、薄様。墨付、七十四丁。印記「椎本文庫」。『橘守部大人自筆遺稿展観入札目録』五〇。入札の際の展観番号札が添えられている。

19　黄色地窠龍亀甲繋文空押表紙（二六・二×一八・九糎）。外題、打付書「石上私淑言　上巻（下巻）」。内題「石上私淑言上巻（下巻）」。料紙、楮紙。墨付、上冊六十二丁、下冊六十丁。印記「椎本文庫」、唐獅子印。『橘守部大人自筆遺稿展観入札目録』一〇七。

20　浅縹色布目表紙（二六・〇×一八・一糎）。外題、単郭題簽「言葉の玉緒　再板　一」（第二冊以下略）。内題「詞瓊綸一之巻（—七之巻）」。刊記「文政十二己丑年再刻　書肆　江戸日本橋通壱町目　須原屋茂兵衛　京　銭屋利兵衛　同寺町通松原下ル町　勝村治右衛門　同寺町通蛸薬師下ル町　伏見屋半三郎　同御幸町御池下ル町　菱屋孫兵衛　大坂北久太郎町四丁目　河内屋新次郎　勢州松坂　柏屋兵助」。印記「椎本文庫」「池庵」、唐獅子印。朱墨藍による書入多し。『橘守部大人自筆遺稿展観入札目録』一〇五。それによれば朱は守部、墨藍は道

守の書入。

21　浅縹色地卍繋文空押表紙（二七・三×一八・四糎）。外題、題簽「万代集　一二　春（朱）」（第二冊以下略）。内題「万代和歌集巻第一（―廿）」。料紙、斐楮交漉紙。墨付、第一冊四十五丁、第二冊四十九丁、第三冊五十一丁、第四冊五十八丁、第五冊五十七丁、第六冊三十八丁、第七冊三十五丁、第八冊三十七丁。印記「椎本文庫」、唐獅子印。書入僅少。『弘文荘待賈古書目』第十三号（昭和十四年六月）所載。

22　黄色地花文空押表紙（二四・一×一六・五糎）。外題、絹題簽「拠字造語抄　清水浜臣輯　乾（坤）」。内題「拠字造語抄」。料紙、楮紙。墨付、上冊三十三丁、下冊三十四丁。印記「椎本文庫」、唐獅子印。書入なし。『橘守部大人自筆遺稿展観入札目録』一一〇。

23　黄色布目表紙（二六・八×一八・六糎）。外題、題簽「蜻蛉日記上　上下（中　上中下、下　上中下）」。内題「蜻蛉日記上（中、下）」。料紙、楮紙。墨付、上冊五十四丁、中冊七十七丁、下冊八十六丁。奥書「元禄九年四月十四日以水戸中納言卿御本一校了　密乗沙門契沖」「宝暦六子十二月　大坂心斎橋淡路町角　安井嘉兵衛再板」。印記「椎本文庫」、唐獅子印。宝暦六年版本を転写し、契沖の書入を移写したもの。『橘守部大人自筆遺稿展観入札目録』一一三。

24　淡茶色地雲形文布目表紙（二七・二×一八・三糎）。外題、題簽「続世継　一（―十）」。内題「続世継第一（―十）」。料紙、楮紙。墨付、第一冊より順に、三十八丁、三十九丁、三十二丁、四十丁、四十一丁、五十七丁、四十丁、三十一丁、二十六丁、二十六丁。奥書、第九冊末「右一巻為定卿筆の本をもて校正しをはりぬ　寛政十年七月六日夜　源弘賢（朱）」、第十冊末「慶安三年孟春仲旬　中野道伴行（ママ）」「文化戊申季春望前一日渉猟注所見了泊洎主人」「同仲夏初三以友人岸本氏所蔵古抄本対校了（朱）」「右続世継十巻以印本書写諸書入異同等悉取屋代輪池先生平田気吹廼屋先生本而写之校合之畢　文政五

壬午年六月廿八日　国友恒足」。印記「椎本文庫」。国友恒足が慶安三年版本を書写して諸本で校合したもの。『橘守部大人自筆遺稿展観入札目録』一一四。

25　浅縹色表紙（二七・二×一九・二糎）。外題、題簽「出雲風土記解　上（中、下）」。内題「出雲風土記解」。料紙、楮紙。墨付、上冊七十五丁、中冊六十七丁、下冊五十一丁。印記「椎本文庫」、唐獅子印。

26　茶色表紙（二八・四×二〇・三糎）。外題、題簽「装束織文図会　全」（第一、二冊）、「女官装束織文図会全」（第三冊）。内題、第三冊にのみ「女官装束織文図会」。料紙、雲母引厚紙。墨付、順に十四折、三十二折、十五折。奥書、「文化五年戊申仲夏日模写之　源朝臣義溥」「さうそくの学ひは色と文と織糸とのやうをよくこゝろうるにあり大かたの図式は世におほく又心得やすくもあれと色文の書はいと得かたくかつ心得かたし今此織文図会君臣女官部あはせて三帖はさるゆゑよしありてゆつりうけてふこにをさむ永くひめ伝ふへきなり　天保十一年三月　橘守部」。印記、菊花中に桐花印。『橘守部大人自筆遺稿展観入札目録』一〇三。

27　浅縹色布目表紙（二六・二×一八・七糎）。外題、銀切箔散題簽「長歌詞珠衣　一二（三四、五六）」。内題「長歌詞珠衣一之巻」「詞珠衣二之巻（―六之巻）」。料紙、楮紙。墨付、第一冊八十七丁、第二冊七十八丁、第三冊八十三丁。印記「椎本文庫」。

28　濃縹色表紙（二七・二×一九・〇糎）。外題、子持枠題簽「新撰六帖　一（二、三四、五、六）」（「二」以下は貼紙墨書）。内題「新撰六帖題和歌目録」「新撰六帖題和歌第二帖（―第六帖）」。刊記「万治三庚子年仲春吉旦　中野五郎左衛門刊行」。書入の識語は以下のようである。第一冊見返しに東世子筆で「この書嘉永四年夏夫木抄を校合了　同七年六月古写本を校了　同年信実朝臣家集を校合（朱）」、第一冊末「右古写本校合了　嘉永七年六月十九日（花押重書）（臙脂）　同　安政六年七月校（朱）」、第二冊末「以古写本一校了嘉永七年六月十九

日夜（臙脂）」、第三冊末「嘉永七年六月廿日以古写本一校了（臙脂）」、第四冊末「嘉永七年六月廿日以古写本一校了（臙脂）」、本文の校合は臙脂の校合が冬照、朱の校合が東世子か。印記「館林蔵書」「椎本文庫」「岡田真之蔵書」。『弘文荘待賈古書目』第十四号（昭和十五年五月）所載。

29　茶色艶出表紙（三二・九×二一・三糎）。外題、書題簽「歌林名所考　伊行　知行（与行　良行、安行　也行　恵行）」。内題「謌林名所考巻第一（―五）」。刊記なし。巻末に書入奥書「此三冊壱部は近曽西順抜書之名所考也然共歌すくなく名所たらさるにより法橋昌琢之類字名所和哥集并六字堂宗恵之松葉集等之内より書加者也　延宝八申ノ三月　日（陰刻朱印、印文不明）」。巻頭に守部の識語「此書たえて世にしる人なし歌林名所考といへる題号たに聞伝へさるをおもへは板にゑれる間もなく亡ひたるものと見えたり此書のめつらしきのみならす撰者桑門西順はそのかみさうなきものしりなりつる事は歌林拾葉集の手際もても粗しられたりされは此書の中にも故事ある名地には必す国史万葉を引又中古後の諸説ともまても引れたりこれを補て書入たるは何人なりけむいとよくつとめなしたり巻尾に延宝八年の跋あれは西順の友人なりしなるへしさはかりの人たちなりけれとおとろへたる時代のさかはめぬかれかたくや有けんかの名寄松葉集に牽れて其誤なき事あたはすかれ今あまり拙く見るにしのひさるふし〳〵のみをかりに一わたり改めついとなき比にしていそきものしつれはもらせし事多かり猶よく改め正すへきわさなりかし天保十一年四月十七日　守部」。印記「椎本文庫」。余白を大きく取った初印本。料紙を加えて増補する。

30　丹表紙（二六・六×一八・四糎）。外題、単郭題簽「本草和名　上冊（下冊）」。内題「本草和名上巻（下巻）」。刊記「江戸浅草新寺町　和泉屋庄次郎発行」。印記「椎本文庫」、唐獅子印、「関場文庫」「宝玲文庫」。

31　後補浅縹色表紙（二三・二×一六・四糎）の下に本文共紙元表紙あり。外題、元表紙に打付書「浜臣すさ

ひ考」。内題なし。料紙、楮紙（全丁入紙）。墨付、六丁（含表紙見返し序文）。印記、「椎本文庫」、唐獅子印、「月明荘」。天保三年正月の清水浜臣序あり。

32　素紙表紙（二二・二×一六・三糎）。仮綴。外題、打付書「八幡愚童訓」。内題「八幡愚童訓（本名八幡蒙古記）」。料紙、楮紙（一部雁皮紙）。墨付二十六丁。識語「正応二年己丑八月（以下朱）イ筥崎宮社官　図書允定秀誌（花押似書）」。印記、「椎本文庫」「妻屋所得」「鹿岑票」。『八幡愚童訓』甲本、乙本いずれとも別書で守部が『蒙古諸軍記弁疑』で用いたもの。小野尚志氏『八幡愚童訓諸本研究論考と資料』（平成十三年刊）参照。

33　浅縹色布目表紙（二七・五×一八・四糎）。外題、雲母引題簽「南紀名勝畧志（那賀郡伊都郡）　一」（第一冊）、以下略。内題、第一、六冊欠、第二冊「南紀名勝略志」、第三―五冊「南紀名勝畧志」。料紙、楮紙。墨付、第一冊四十丁、第二冊二十八丁、第三冊二十八丁、第四冊三十二丁、第五冊三十二丁、第六冊三十六丁。印記「椎本文庫」、唐獅子印。

34　縹色表紙（二七・五×一九・四糎）。外題、子持枠題簽「哥仙家集（人丸躬恒）　一」（第一冊）、以下略。内題「柿本集上（下）」「躬恒集上（下）」「素性集」「猿丸大夫集」「家持集」「業平集」「兼輔集」「敦忠集」「公忠集」「斎宮集」「敏行集」「宗于集」「清正集」「興風集」「是則集」「小大君集」「能宣集」「兼盛集」「貫之集第一（―九）」「伊勢集」「赤人集」「遍昭集」「源順集」「元輔集」「朝忠集」「高光集」「友則集」「小町集」「忠岑集」「頼基集」「源重之集」「信明集」「元真集」「仲文集」「忠見集」「中務集」。刊記「正保四丁亥暦八月　書林中野道也繍梓」。最終冊末尾に「此書全巻契沖阿闍梨の書入にして橘守部翁の旧蔵なり西脇君がもとめらるゝまゝに源信綱昭和十九年四月卅日しるす」と佐佐木信綱氏の加証あり。印記「椎本文庫」「鞠山文庫」。契沖の朱墨の書入詳密。

35　縹色地卍繋文艶出表紙（三〇・三×二一・五糎）。大和綴。外題、淡黄色題簽「十八番歌合」。内題「十八

番歌合」。料紙、薄手鳥の子。墨付、二十一丁。嘉永五年七月十二日の冬照序あり。一番左「皓　きのふすきけふも過して五月雨にあすかの里をあすもとはまし」。

36　鳥の子色地緑葵文様布目表紙（二九・八×二一・五糎）。大和綴。外題、上冊、銀紙題簽「三十番歌合」、下冊、なし。内題「三十番歌合」。料紙、薄手鳥の子。墨付、上冊三十三丁、下冊三十四丁。安政五年長月の冬照序、万延二年正月十日の冬照跋あり。一番左「詮　咲匂ふ色かえならぬ桜花うしろめたしや風吹ことに」。

37　茶色布目表紙（二六・二×一八・九糎）。外題、題簽「土佐日記解　上（下）」。内題「土佐日記解上（下）」。料紙、薄様。墨付、上冊六十丁、下冊六十七丁。巻頭提要末に「万延二年正月　橘冬照しるす」、内題下に「橘冬照述」とある。本書は本文庫カードには「冬照自筆」とするが疑義がある。また、本書の体裁を見る限りでは冬照の著作と考えざるをえないが、実は守部著『土佐日記解』（『土佐日記舟の直路』以前に成った詳注）と提要以下ほとんど同一である。守部の『土佐日記解』には吉田家蔵本と阪本龍門文庫蔵本の二本の自筆本が存するが、本書をふくめ三本は吉田家蔵本、阪本龍門文庫蔵本、本書の順に成立したと認められる。冬照が父守部の著作を自著のように装っている理由は不明で、不審である。

38　浅縹色表紙（二七・二×一九・四糎）。外題、単郭題簽「延喜式校本　完」。内題「延喜式校本」。料紙、薄様（全丁入紙）。墨付、三十七丁。奥書「天保の三年九月延喜式を講しける時豊林崎文庫御本京極本古写本又朽木家の本ともを乞えて校合し終りぬ　橘冬照（花押）」。印記「椎本文庫」「本間文庫」。版本を底本にして校異を書き出したもの。

39　淡茶色表紙（二三・五×一六・七糎）。外題、中央打付書「消息贈答」、左下に「とせ子」と署名。左肩に縹色題簽「消息贈答（とせ子自筆）」（後人筆）とある。内題なし。料紙、薄様（全丁裏打）。墨付、十七丁。識語「右贈答井上正徳公并御妹春子の君又御そはめの松子」。三

者の消息にとせ子が朱で添削を加える形式をとる。三者については不明。

〔付記1〕 橘守部の自筆稿本・手沢本類は橘家伝来のものは昭和十四年二月に売立てられ、その多くが天理図書館と本文庫に分蔵され、その他阪本龍門文庫十一点など諸家に蔵される。また、その前後に売立とは別に橘家より市場に出たものがあり、『弘文荘待賈古書目』に見えている。それらの一部は天理図書館に現蔵するが、所在不明のものも多い。さらにそれとは別に、守部が未だ無名であった三十代から終生にわたって後援者であった桐生吉田家に自筆稿本と膨大な書簡が残されている。それらについては徳田進、高井浩両氏による調査が行われているがなお全貌は明らかではなかった。近年それらは吉田允俊家文書として群馬県立文書館に寄託され、そのうち守部関係の資料についてはすべての複写が完了し、内容をうかがうことが出来るようになった。本文庫は、吉田家、群馬県立文書館の御許可を得てその大部分のマイクロフィルムを備えることが出来た。何分にも膨大な分量であるので内容の検討には時間を要する。そのため本稿執筆に当っては残念ながらそのごく一部しか生かすことが出来なかった。今後の検討課題としたい。また、複写の御許可を賜った吉田允俊氏ならびに群馬県立文書館に深甚の謝意を表するものであります。

〔付記2〕 昨年平成十六年九月十八日より平成十七年一月十日にかけて川崎市民ミュージアムと四日市市立博物館において「21世紀の本居宣長」展が催された。本文庫からは『難古事記伝』（09A—5）と『正訂古訓古事記』（09A—74）が出陳された。ところが、前者についてその貸出しの際、川上が誤った説明をしたため、図録の解説に誤りを生じることとなった。誠に申し訳なく、以下に謹んで訂正させていただく。今回出陳されたのは、草稿本ではなく、かつて横山重氏が所蔵されていた自筆終稿本（全集底本）そのものである。その間の事情は注4にも記したが、将来再び疑義が生じないよう更に述べ

ておくこととする。言い訳がましいが容赦されたい。

昭和十四年二月の橘家の売立に『難古事記伝』は終稿本と草稿本の二本が出品されている。その結果、終稿本は横山重氏が、草稿本は財団法人斯道文庫（当時）が所蔵するところとなった（ちなみに終稿本は三三六円八〇銭、草稿本は四〇三円三〇銭で落札されている。時勢のためかかなり高額である〈本文庫蔵入札目録への書肆書入れによる。反町茂雄氏『一古書肆の思い出』2に抄出掲載されている落札価格と一致しており信頼できると考える〉）。その際、斯道文庫は横山重氏の許可を得て終稿本の副本を作成した。それが現在シ21E—f36として本文庫が所蔵する本である。最初函架番号を09A—4とし、終稿本の購得に伴い現在の番号になったと思われる。『椎本文庫目録』（昭和十七年）、『麻生文庫稀覯書目録』（昭和二十六年）においてはともに終稿本は副本のみが記載されている。従って、終稿本の購得は斯道文庫蔵書が本塾に寄贈されて以後のことになるが、時期やその間の事情は聞くところでない。川上はつい最近まで終稿本が本文庫に存在することに気づかず、旧目録に従って現在09A—4と登録されている草稿本（旧目録では09A—5）を終稿本の副本、終稿本である09A—5を草稿本と思いこんでいた。草稿本が新補表紙で春日政治博士筆の題簽がついていたことも思違いの原因であった。今回本稿執筆に当り、目録と原本を対査するうち、初めて誤りに気づいた次第である。以上、今後のため縷述した。

（川上新一郎記）